

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ラブラドルあさひ館（児童発達支援）					公表日	令和8年2月10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・個室で休むことができ、また広い空間で体を動かすこともできています。ゆとりのある環境です。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・配置基準よりも多い職員数を配置し、個別の対応ができるように配置しています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・館内はすべてバリアフリー化しており、写真やマークなどでわかりやすく配慮しています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動の前後で消毒し清潔を保ち、季節の飾りで心地良く感じるようにしています。 ・こどもたちが自分で玩具を選び、出しやすいように配慮しています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・集中して遊びに取り組みたい時は個室を、体を動かしたい時はホールの広いスペースを提供しています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・職員会議等で振り返りを行っています。	・もっと話し合う機会を多く設けられたらと思います。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・評価表の結果や保護者の方の意見を職員全体で共有し、改善の検討をしています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員会議の場と日頃からその都度気づいたことがあった時は意見し話し合い、改善につなげています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による評価は行っていません。	・第三者による評価が行えるように改善を検討したいと思います。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・今年度は援助技術、虐待防止、感染症対策の研修を行いました。	・様々な研修の情報を集め、職員の学びたい研修の希望をとる機会を設けたいと思います。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・職員間で話し合い利用している子どもたちに合わせた支援プログラムを作成し、ホームページに公表しています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・支援経過について達成状況の評価や達成されない原因、ニーズ等をまとめた上で、計画を作成しています。	・多職種で様々な視点で分析できるようにしたいと思います。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・全職員で情報共有を徹底し、支援方法を共通理解した上で計画を作成しています。	・常に子どもの最善利益を考慮していきたいと思っています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・共通認識の下で、統一した支援が出来るように共有しています。いつでも計画を見れるようにしています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・フォーマルなアセスメント表や日々の活動の様子を記録にとり確認しています。	・インフォーマルなアセスメントの使用はできていないのが課題です。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・それぞれの項目に対する支援目標を設定し、ガイドラインの内容を基に具体的な支援内容や方法を設定しています。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・様々な経験が出来るように、アイデアを出し合い工夫しています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・子どもの成長の状況に応じて新しいあそびを取り入れ、興味が向かう工夫をしています。	・様々なことを取り入れられるよう、研修や学びの機会をより多く取り入れたいと思います。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個別活動の時間、集団活動を楽しむ時間のどちらも設け、みんなが参加できるように工夫しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・職員間の連絡ノートで支援に関する必要な情報がわかるようになっています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・支援や子どもの様子について気になる事や気付いたことはすぐに報告、共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・毎日必ず記録をとるようにし、変わったことがある時は詳しく書き残すようにし、支援に活かしています。更に強度行動障害支援計画書の記録も取っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的にモニタリングを行い、進捗状況を評価し、計画の見直しを行っています。 ・複数組み合わせ、個々の発達段階に合わせた支援をしています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・何かあれば相談できる体制になっています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・時々併用先を見学し、支援を合わせるようにしました。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・今年度はこれから情報共有を行う予定です。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・相談員より助言を受けました。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・児童発達に限っては、今年度交流する機会がありませんでした。		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・連絡ノートや送迎時に様子を伝え、共通理解しています。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・あさひ館だよりに関わりのヒント、アドバイスを掲載しています。	・家族等の参加できる研修、外部からの情報等も提供できればと思います。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・個別面談時に説明をしています。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・個別面談時に機会を設けています。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・個別面談時に説明しながら、同意を得ています。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・相談があった時には、すぐに対応、助言をしています。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	・夏休みに保護者によるマジックショーを開催し、兄弟、卒業生、保護者を招待し交流したほか、情報交換も行いました。	・来年度も新たなイベントを企画し、交流できる機会を提供したいと思います。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	・相談があった時には、すぐに対応する体制にしています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	・定期的なおたよりの発行とホームページのブログにて活動の様子をお知らせしています。	・引き続き様々な様子を写真等でわかりやすく発信していきたいと思います。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		・職員ひとりひとり十分に留意して取り扱っています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	・子どもへは写真や絵カード、音などそれぞれに有効なもので工夫して伝えています。 ・保護者へは、連絡ノートや予定表のアイコン、ブログに写真を掲載し伝えています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・地域の食生活推進員さんとの交流でおやつづくりをしました。 ・お弁当提供店に感謝のやりとりをしています。	・更に地域とのつながりを増やしていけたらと思います。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	・職員間でマニュアルを確認し、さすまたを使った不審者対応訓練、感染症の処理方法の訓練を行いました。 ・今年は災害時の伝言ダイヤルについて、家族や職員へ配布し周知しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	・冬の寒さ対策を考慮した非常災害時を想定した業務継続の訓練を行いました。	・引き続き様々な状況を想定し、訓練を行いたいと思います。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	・一覧にまとめ、対応等も共通認識しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	・現在はアレルギーで医師の指示書の必要な方はありません。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	・安全計画を策定し、点検や訓練も計画通りに実施しています。必要な物を準備、追加しています。 ・心肺蘇生法と喉に詰まった時の対処法を訓練しました。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	・不審者対応訓練や避難訓練を実施し、おたよりやブログ、連絡ノートで周知しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・ヒヤリハット報告書（これから活かすノート）に記録し、職員間で共有し再発防止に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	・虐待防止チェックリストを用いて、適切な対応を行っているか確認しています。 ・支援者1人に負担がかかって支援にいきづまらないように支援内容を見直したり、協力する体制をとっています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		・保護者の承諾を得て、記録もとっています。 定期的な様子を確認し、見直しています。		